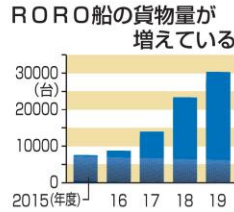




大分港大在地区（大分市）の貨物専用フェリー「RORO船」が扱う貨物量が増えています。2019年度は初めて3万件を超えて過去最多となりました。

① 「RORO船」とはどんな船ですか？



RORO船はトレーラーなどが直接乗り入れ、シャシー(荷台部分)のみを切り離して輸送する。同港で

19年度大分港大在地区

RORO船貨物量増

3万件超過過去最多

大分港大在地区（大分市）の貨物専用フェリー「RORO船」が扱う貨物量が伸びている。運送業界のドライバー不足で陸上から海上輸送への転換が進み、2019年度は初めて3万件を超えて過去最多となった。県は海上に切り替えた企業への補助制度や、県外でのPR活動も奏功したと分析。今春以降は新型コロナウイルスの影響で減少傾向にあり、施設料の減免などで利用維持を図っている。

県の補助制度追い風

RORO船はトレーラーが東京港に向けた週3便を運航。16年に川崎近海汽船が清水港（静岡県）と結ぶ週3便の航路を設け、18年3月から6便に増やした。現在、2航路で計週9便が稼働している。県港湾課によると、19年度に取り扱った大分港発のシャシー台数は3万2866台。航路増設も追い風となり、18年度より6952台増えた。東京ルートだけでなく

15年度（751台）と比べると4倍になった。運搬物は大分、熊本、宮崎、鹿児島各県から集まった野菜や肉など農産物が目立つ。他に化学製品や自動車関連部品が多いという。RORO船はドライバー不足の中、新たな輸送手段として期待されている。災害で道路や鉄道が寸断された際、大量に物資を運べるメリットもある。18年6月の西日本豪雨以降、海路への切り替えや、リスク分散で陸上併用する企業が増えたという。大分県は「九州の東の玄関口」を掲げ、大分港を物流輸送の拠点としたい考え。17年度以降、海上輸送に転換した企業に対してシャシー1台あたり7万円（上限12台）を補助。19年度にかけて計29社が活用した。

九州各県でセミナーを開催し、航路を周知してきた。川崎近海汽船大分支店（大分市）は「県内外で認知度が高まり、利用が増えた面もある」と話す。ただ、本年度は新型コロナウイルスによる景気悪化の影響が避けられそうにない。同支店も「2割以上、落ちていくのではないかと話している。いかに荷主をつなぎ止めるかが課題となっている。県は旅客船も含め、売り上げが減少した運航業者を対象に港湾の施設料を減免する制度を新たに設けた。港湾課の中村充宏課長（55）は「今後も助成制度の活用や大分港の利用促進を働き掛けていく」と話している。（加納慶）



2019年度の貨物量が過去最多だったRORO船。大分市の大分港大在地区（県提供）

②大分港の「RORO船」の貨物量が伸びている理由は何でしょう？

③「RORO船」による輸送のメリットとデメリットは何ですか？

④本年度は新型コロナウイルスの影響で減少傾向にあります。どんなことが課題となっていて、県はどんな対策を取っていますか？